

5・6年 単元名「アマモを育てよう」(10時間)

1 単元設定の理由

昨年度、スナメリが戻ってくる海にするためには、水質環境の向上が大切であると考えた。そこで、「海のゆりかご」と言われる「アマモ」を増やし、木原の海に植え、水質をよくしていこうと考え、今年度は、専門家の指導のもと、アマモの苗作りに挑戦することにした。

アマモがたくさん生えている「アマモ場」は、流れをよわめたり、かくれて敵から身を守ったり、卵を産む場になるなど、魚にとって居心地の良い場所である。また、よごれた海水を浄化（窒素やリンを吸収）する役割を持っている。「アマモ場」をつくることは、スナメリのエサを生産できるとともに、水質改善もできると考えた。

2 単元目標

「アマモ」について、資料から調べたり、専門家から聞いたりすることで、その生態やよさなどの情報を収集する。

アマモ栽培について、専門家から指導を受けながら行うことで、手順や方法、留意点などを整理し、冊子にまとめる。

3 単元の評価基準

資料から調べたり、専門家から聞いたりするなどの方法で、自分の知りたい情報を収集することができる。(情報の収集)

専門家からの指導や実際の活動を振り返り、手順や方法、留意点など、自分の設定した視点で整理することができる。(整理・分析)

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1 4	「アマモ」って何？ ・6年生から昨年度の学習を聞く。(5年生) ・5年生へ昨年度の学習を伝える。(6年生) ・インターネットを使って調べる。 ・専門家から話を聞く。	・6年生が研究の先輩として5年生へきちんと伝えることを大切にし、同じ研究仲間としての意識を高めさせる。 ・アマモ採取は担任が行った。
5 6	アマモの種子選別(9月) ・海につけて葉を腐らせたアマモから種子を取り出す。 ・ピンセットを使って、種子と不純物に分別する。 ・濃い海水(人工海水)を使って、良い種子だけを取り出す。 ・海水の入ったポリビンに種子を入れ、保存する。	・実の詰まった種子を選び、保存をする。 ・ポリビンの周りをアルミホイルで覆い、冷蔵庫で保存する。 ・人工海水を使い、1週間に1度新しい海水に変える。
7 8	アマモの苗床づくり(11月) ・保存していた種子をポットに植える。 ・人工海水の入った水槽にポットを沈める。	・土は元のアマモが生えていた場所の土を利用する。 ・定期的に水槽の掃除や海水濃度の点検を行う。
9 10	アマモ栽培のまとめ(1月) ・種子から芽が出て、成長していることを観察する。 ・アマモ栽培の仕方についてまとめ、冊子にする。	・これまでの活動の写真を整理しておき、児童が自分で選んでまとめられるようにする。
外部連携 / 教材等 瀬戸内海エコツアーリズム協議会 岩井克己先生、上嶋英機先生との連携		